

未来への手紙 選定会 結果

From

テーマ ① 将来へ伝えたい教訓

選定作品

南相馬市立鹿島中学校 1年 森 彩菜 さんの作品

選定理由

①「風評をなくす」 ②「自分事」 ③「次世代へ」という選定のキーワードを中学生らしい素直な言葉で表現している点を評価した。

選定メンバーの声

震災を経験していないながらも自分事に落とし込み、震災について理解し未来へつないでいく必要があるということが、最も中学生らしい文章で書かれていたため選定した。

(齋藤 渚々美)

東日本大震災という出来事は決して消えることはないが、これを暗い過去としてではなく、未来への教訓ととらえることで将来の子どもたちが福島未来に希望を持てるようになるのではないだろうか。

(國分 咲良)

「自分の命を守ること」は災害において最も重要だと考え、作品の選定をするうえで、そのことを伝えようとしていることを大切に。「風評」に関しては、福島の風評が現在まで続いていることは県にとって大きな課題であると考え、そのことについて触れていることも大切に。

(發田 紗織)

「教訓」とは次の世代に伝えるべき教えであり、それは具体的で理解が容易であるべきだと考えているため「将来へ伝えたい教訓の具体的な記載」「将来へ伝えたい教訓のわかりやすさ」の二つをキーワードに作品の選定を行った。

(関根 和希)



未来への手紙 選定会 結果

テーマ ② 将来の自分へのメッセージ

選定作品

田村市立都路中学校 3年 石井 琉生 さんの作品

選定理由

中学生らしい明るい素直なメッセージで書かれており、この作品を読んだ方が、震災を自分事として捉えられるような内容になっており、自分自身の将来の夢や目標について前向きに書かれている点を評価した。

選定メンバーの声

今後震災を知らない世代が増えていく中で、「未来への手紙」といった事業を通じて、東日本大震災が起きたということを風化させず継承していく必要がある。この作品は防災意識に対して震災からの教訓があり、かつ未来への前向きな姿が見えたので選定した。

(井上 桜)

東日本大震災と聞くと原発事故やその被災者の言葉など、浜通りのことが注目されがちであり、会津の風評被害などは語られないことが多いため、この作品を見たすべての県民が納得するように選定した。

(平田 智哉)

中学生のエネルギーが、今の自分にグッとくるものがあった。自分自身について考え直すところもあり、中学生の皆さんの作品に学ばせてもらった。

(櫻井 恵理)

震災から長い年月がたった今でも生活に苦しんでいる人や避難先から戻れない人がいるため「県民の笑顔明るい福島」をキーワードとして選定を行った。

(鈴木 麻友)



未来への手紙 選定会 結果

テーマ ③ 将来の福島県への願い

選定作品

二本松市立岩代中学校 3年 菅野 明人 さんの作品

選定理由

震災を経験していないが解像度が高く、共感できる内容であったため、震災から15年という節目の式典で読み上げられるにふさわしい作品と思い選定した。

選定メンバーの声

文章の中に、豊かな自然、環境、風景、という言葉が使われているが、住んでいる場所はそれぞれでも、各々に好きな風景、景色はありそのどれもが福島県である。150周年にふさわしい内容であり、ぜひ知事に読んでいただきたい。 (宍戸 結実)

震災を経験していない世代に、震災というものを教科書の中の出来事として終わらせてほしくない。福島県に生まれた福島子どもだからこそ書ける震災の被害や、そこからの福島の人たちの頑張りを、震災を経験していない世代にも学んでもらい、それぞれが何をどのように考え、どんな願いを福島県に対して持ったのかということ考えた。 (田村 大輔)

福島がこうあってほしい、こうなってほしいという大きな思いをきれいに語っている印象で完成度が非常に高い。終盤の「福島が復興のシンボルとなる」という言葉からは、まだそのシンボルになりきれしていない、遡上にあり、復興はまだ終わっていないということをぱっと気づかせてくれるような文章であった。 (平子 七海)

今回作品を応募してくれた子供たちは震災を直に体験した世代ではないため、自分たちには持ちえない視点や感情を綴ってくれていると感じ、一般的な「震災」への思いではなく、自分ごととしての思いを伝えることは、福島未来を担う主体性として評価できる。 (菅野 凌大)

